

□私の交友録／若き日の画家と作家達

△7▽

# 谷崎潤一郎

△上▽

伊藤慶之助

△画家・春陽会会員▽

私がフランスから昭和七年に帰って、阪急沿線岡本の山手に住んだ時に、すぐ近くに谷崎潤一郎先生のお宅があって、東京深川の笹沼別邸以来の先生との交遊が再び始まることになった。

先生は岡本第一小学校の東隣り、道路から石段を三つ程上った広い庭の中に、ペンキ塗りの平屋の洋館二棟の家で、右の棟には千代子夫人と鮎子さんが起居せられ、左の棟が谷崎先生の書齋になっていた。

ある日、私は先生の原稿のじゃまにならないように先生の話に合槌をうっていると、先生はもう少し原稿が済んだら一緒に神戸に出て「博愛」に支那料理を食べに行こう。その時女中が来客をつけ、中年の髭をたくわえた古武士然たる紳士が、案内されて入ってこられた。

「私は毎日新聞の者ですが、毎日新聞の次の夕刊小説をぜひ先生に御執筆いただきたいのですが、先生の御都合如何でしょう」すると谷崎先生はそぐずに「君のところの夕刊小説の原稿のまんなか」に花柳病の薬の広告がいつも組み込まれているがどうもあれは全く感じがよくないねえ、愉快じゃ

ないよ」といわれた。なるほどそういわれてみると、第一面の小説欄のまんなか長方形にくぎられて小さいが眼につく有田ドラッグなどの広告がいつもはめ込まれていた。その記者はすぐ鄭重な言葉で「それはうっかりしておりました。社の販売部のおもわくで、高価な広告料などの関係ではめ込まれるものと思えますが、先生のお作品の場合私が責任をもってそのような失礼な広告は入れさせませんから、どうぞぜひ御配慮をお願い致します」と答えた。

谷崎先生は思い返して、それでは今書いている読売新聞の続きものが完了したら、あなたの新聞に書きましょうと返事をされた。新聞記者は非常に喜んで厚く礼をのべ、帰りがけに名刺を出された。谷崎先生は、その名刺を見たときたんにハッと顔になって、急に態度をあらためられ、椅子を立て、これはどうもたいへん失礼を致しました。先生とは知らずにおしつけないことを申しあげた。先生とは知らずにお許し下さいと深く頭をさげて礼を尽して、記者の前で謝罪をせられた。谷崎先生が腰を低くしてこんなに恐縮さ



谷崎潤一郎が手をつけて無礼をわびた  
毎日新聞の千葉亀雄（昭和10年10月逝去）

れたのはこれまで見たことがなかったので私はびっくりした。先生は古武士然たるその人を鄭重に玄關まで送っていかれた。

テーブルの上に残された名刺をそっと見たら、毎日新聞千葉亀雄と書かれていた。千葉亀雄のことは「文壇裏話」などで、文壇に隠然たる勢力をもっておられることはかねて聞いたり読んだりしていたが、谷崎先生はまだ千葉先生を御存じなかったらしい。

谷崎先生は神戸の南京町の「博愛」によく行かれたが、支那料理を食べた後で、君、少し散歩をしようといって、二宮町、北長狭通り、中山手裏通りなどのエキゾチックなバーへは度々先生に連れられて、私も大分くわしく知っていた。

ある日、林武と木下孝則が大阪に来て、神戸に行こうというので北長狭通りの細い迷路にあるバー「スター」に案内した。この家も谷崎先生のよく行かれる家で、いつもは煙草のけむりと、強い酒の匂いと、女の体臭でもうもうとしているのに、今日は踊っている女もなく、何となく閑散として

いた。マダムがそばに寄ってきて「今日は新しい女連れに横浜に行っているので、私がサーピスしましょう」と酒をつぎ始めた。どうもいつもと様子がまるで違って面白くないので、しばらくして三人はこの家を出て元町裏にあるバー「ローズ」に行った。

ここは入港したアメリカの大きい船の船員達と踊る女達でごったがえしていた。酒と煙草と女の体臭でもうろうとした雰囲気包まれて林武はわが意を得たりと、まさにロートレックの世界だともろこんだ。

その夜は刑事らしい数人の男が入って来て、うさんくさそうに私達のそばにきて顔をのぞき込んだりして出てゆくと、しばらくするとまた違った数人の人相の悪い男が入ってくる。一晚中そんなことが幾度もくり返された。なんとなく異様な雰囲気が続いたが、翌朝の新聞を見て私達はさらにびっくりした。

最初に行ったバー「スター」の二階には、その時すでに日本髪のカツラで女装したピストル強盗のピス健が息をひそめて潜んでいたのである。その日の夜明け、防弾チョッキで武装した警官隊の一群でバー「スター」を包囲して一せいに踏み込んだ時には、薄化粧に日本髪の女装したピス健が両手にピストルを発射しながら赤いけだしをけて、屋根から屋根に飛びながら長時間執拗に抵抗したと書かれていた。

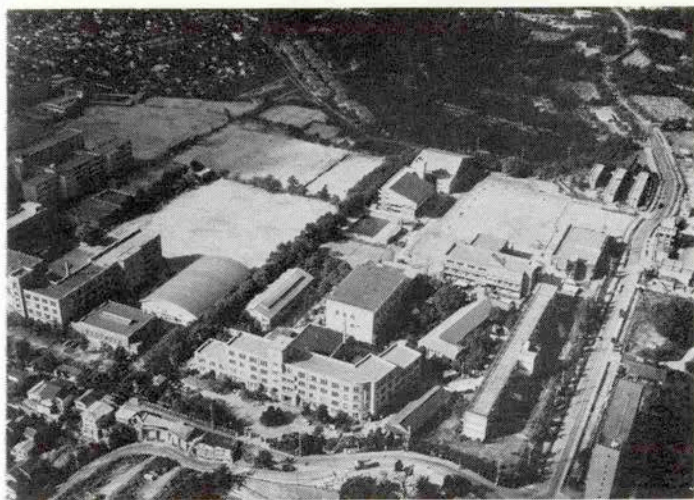
あの夜、私達はバー「スター」で居すわって飲んでいたら、ピストル強盗のまきぞえをくって警官隊かピス健のピストルの弾をくってやられていたかも知れない。

□神戸商科大学と神戸 〈終〉

# 生き続ける 創立の精神

高木 正雄

〈神戸商科大学学長〉



緑に囲まれる神戸大全景

本学が昭和四年春に難産の末にやっと誕生したことは本誌昨年八月号に述べたが、来年春には早くも創立五〇年を迎えることになる。この半世紀の間に世界は大きく変わり、わが国もまた大変革を遂げたが、これとともに本学も内容外観ともに非常な変貌をみた。専任教員二六、七名、事務職員（守衛、用務員を含む）一五、六名、学生総数僅に四五〇名というこじんまりした商業専門学校として発足し、施設設備面をみても、当初は六万三千平米のキャンパスに六千平米余りの瀟洒な鉄筋コンクリート四階建の学舎と六百平米ばかりのスマートな体育館だけであった。しかしそこには極めて和やかで生き生きとした空気がみなぎり、教職員間はもとより師弟間にもまた学生相互の間にも大変親近感があつて、いふなれば校長を家長とする一大家族の観があり、血の通うた教育の府であつた。創立後数年にして卒業生に対する経済界からの求人が著しくふえたため、学生定員を一学年につき五〇名増員して二〇〇名にし、それに伴つて教職員も若干はふえたが、それでも学園の雰囲気にはさしたる変化はみられなかつた。

ところが戦後の学制改革によって、昭和二十三年に新制大学になつてからは事情が大きく変わった。本学は経済学・経営学・管理科学の三専門学科をもつ商経学部のみからなる単科大学であつてその上に経済学研究所と経営学研究所の二つの大学院研究科（何れも博士課程）を擁し、また附属図書館、附置経済研究所を持つており、専任教員九五名、事務職員四八名、学生総数一六〇〇名とふくれ上つた。他方施設設備面では、キャンパスこそ八万六千平米で余り拡がってはいないが、学

舎、図書館、経済研究所、学生会館、新体育館、弓道場、クラブハウス等々が増築をみて合計二万平米を遙に超えるに至り隔世の観がある。このように物的施設の拡充と平行して、教職員並びに学生数の増加によって、教職員相互の間にもまた教職員と学生、学生相互の間にも人間的ふれあいの機会が少くなり、ややもするとお互に意思疎通を欠く嫌いがあって、高商時代のような一体観が著しく失われていくように感じられてならない。もっとも現今のわが国の大学の中では、本学の如きは最も規模の小さい大学であって、ある意味では適性規模といえるかも知れない。本学では教師と学生、また学生相互の人的交流の機会をできるだけ多くし学生が疎外感を懐くことを防ぐために色々工夫をこらしている。すなわち入学後一年半は普通ゼミと称して、全学生が思い思いに教養科目担当の何れかの教師の演習に参加しその指導を受けるようにしているし、また最終の二ケ年は専門科目担当の教師一人につき十人程度の学生が所属し、その指導によって卒業論文を作成する制度（専門ゼミ）を採って、教師と学生、学生相互間の交流をはかり、学問研究を通じて人間形成に役立てるようにしている。また課外活動を奨励し、運動部たると文化部たるとを問わず、学生がなるべく何らかのクラブに参加して、クラブ活動のなかでお互に切磋琢磨したり苦楽を共にすることによって円満で思いやりがあり、また頑張りのきく人間に成長することを期待している。

最近求人先からよく次のような要望を聞くことがある。すなわち「以前とは異なってこの頃の学生さんは成績の良い人ほど往々にして協調性が乏

しくまた頑張りがきかないところがあって困ります。だから成績は多少落ちてもよろしいから、元気があって人格円満な人を頂きたいです」と。これにつけても、創立当初に伊藤眞雄初代校長が力説した次の言葉が今日もなお生きておるばかりか今日こそ一層強調されねばならないことがうなずけよう。「スマートなジェントルマンライクな人間を養成するのが私の念願である。いわゆる情報化社会ないし管理社会が進めば進むほど高度の専門知識を涵養すると同時に、人間教育を十分行うことがいっそう大切であることを教育者たる者はしっかりと肝に銘じておかねばならないと思う。

ところで本学は、ご承知のように兵庫県の設置にかかる公立大学である。公立大学であるからには、一方において大学に課せられた一般的な使命を果すとともに他方では地域社会のさまざまな要求に応じた経済・文化・社会生活の向上発展に貢献することが要請される。第一の使命を果たすためには、近年の著しい科学技術の進歩に伴う学術の高度化に応じて教育内容の向上、研究施設の充実をはかって教育研究の成果をあげ学問の創造に寄与しなければならぬが、本学では特に大学院の充実を中心としてこの目的を達成するように致したい。また第二の使命を果たすためには、公開講座・聴講生制度・運動場や図書館の開放等を行うとともに、さらに附置経済研究所の機能を十全に活用することを考えている。このようにして公立大学としての本学が兵庫県、わけても国際港都神戸に存在することを十分意義あらしめるように今後とも一段の工夫と努力を重ねていきたいと思っている。

SHIGENOBU  
KIMURAYOSHIAKI  
INUI

# 神戸をクリエイティブの アトリエのある街に 乾由明 VS 木村重信

△京都大学教授▽

△大阪大学教授▽

★国際文化都市神戸をめざして'78が明けた

木村 地球時代の幕明けは、ガガーリンのいった言葉「地球は青かった」で始まったと思うんです。ガガーリンのボストーク一号の頃から、要するに地球を客観視するというか、イメージとして思い浮かべるようになったんですね。ほんの十年前からなんですけど……。なぜ、初めにこんなことをいったかといいますと、神戸文化論を考えると、国際的な観点を発想の中に入れておかないと、小さな地方文化論的なものになってしまう、と

いうことをいいたかったがためなんですよ。

乾 今までそういう視点があまりなかったことは確かです。国際都市といっても、これだけ交通機関が発達して情報が入ってくれば、特に神戸だけでなくどこも国際都市になっているわけですから、もう少し具体的に国際性につながる神戸のとらえ方をしないといけないですね。

木村 「世界の中の文化都市神戸」ということについて、三つの問題点があげられると思うんですが。それは、「環境づくり」「組織づくり」「施設づくり」の三つです。

乾 三つとも重大な問題ですね。環境ひとつをとってみ

ても、神戸って所は実に恵まれた所で、生活するにはとてもいいですね。だけど、ものを創り出すとか、生み出すっていうエネルギーが出にくいんじゃないかと思うんですけど。京都なんていう所は、その点気候が悪いがあれだけの文化が生まれた。かえって苛酷な自然環境の方が創造的なエネルギーが出やすいのかもかもしれませんね。

木村 神戸は昔から港町だったので、世間も神戸を国際都市だと思っっている。ことさらに国際都市といわなくても、今までそういう生き方をしてきたし、これからもそのように、生きていかなくはないだろう。それから、

けに、今日のように世界化、国際化時代になると、神戸の果たす役割は益々大きくなった。それと、今おっしゃったような内部的エネルギーと、どう結びつけていくかということが大事なんじゃないか、と思いますね。

乾 国際化という点で、今までは港があるとか、外国人がたくさん来るとかということだったけど、今はむしろ、情報なんです。国際化っていうのは、物とか人の動きというより、情報です。ところが、神戸はジャーナリズムが非常に弱い。出版社もない。現代の情報社会の国際化という点では少し弱いんじゃないでしょうか。

木村 それは神戸だけでなく、大阪もそうですね。

乾 今までは、情報網が東京に集中されてしまっていた。しかし文化的な視野から考えてみると、これからは、むしろ、ひとつの特色を持った地域に情報が分散していく必要があるのではないかと思う。関西は、京都、大阪、神戸というそれぞれ特色のある都市がある。その点、東京は何でもあるけれど独自の性格はなくなってしまっているわけです。日本の核になるのは、やはり特色を持った場所である方が良く、そこから国際化という問題が生まれてくるんじゃないでしょうか。

木村 情報の中央集権化、現在そうなっていますが、これは非常にこわいですね。例えば、関東大震災のようなものが遅かれ早かれ起こるでしょう。現在のように、テレビもラジオも、出版も東京に集中していると、災害が起き

たら大変なことになりますよ。日本の運命がかかっていることだから、関西に第二の情報センターを作ることが必要ですよ。

乾 そうですね。情報が全部東京に向いているってことは、画一化されてきて良くないと思いますよ。日本全体の文化ということを考えても、それぞれの地域が、それなりの文化、情報を持ち、それを育てていく強い力を保たなければいけないと思うんですが。その点で、関西は、日本の文化的視野の中で、地方の独自性を持っている、非常に大事な場所で、神戸ももちろん、そのひとつだと思いますね。

木村 細々ながらでも、たとえ半歩であつても、情報産業を発展させるための組織づくりをやっていないといけないですね。ところで関西というのは、繊維産業で栄えて繊維産業で衰微したわけで、もうダメだと思ってる人が多いと思うんですよ。だけど、私はもう一度、繊維産業を復興させなければならぬと考えてるんです。この産業に関係している人も多く、流通機構も増えていることですよ。

乾 しかし、神戸の繊維産業界の景気はいいですよ。神戸のファッションメーカーは、デザインだけをやって素材も縫製もよそでやるんですね。いわゆる神戸というブランドで売っているわけなんです。これが神戸の強みですね。

木村 「神戸には外国人が多い」といわれましたが、そういう人たちがさまざまな服装や格好で歩いている。それが神戸人の美的感覚を洗練していったんじゃないでしょうか。

乾 確かに、それもあると思います。神戸には昔から外国人が住んでいて、北野町のような町をつくったでしょう。そういう町自体に雰囲気があるんじゃないか。それに、一種の伝統みたいなものもあると思いますよ。「買物をするなら神戸で」というのが昔からありましたね。今でも、よく耳にします、そんな強味がありますね。

木村 外国人に対して、他の町ならば振り向いて見るけれど、神戸では振り向くどころか、外国人が神戸の町に、完全に溶けこんでいる。また、人々もそれを日常茶飯事のように感じている。これが、神戸の繊維製品をアカ抜けたものにさせたことの、歴史的な背景になっているんでしょうね。このことは、国際都市神戸の長所であって、他の都市には真似のできない有利な条件だと思います。

乾 ファッションを考えるとき、今のファッションは、若者がつ野性的なエネルギーからつくられてる面が非常に強いんですね。ところが、神戸のファッションは、いわゆるハイファッションなんです。つまり、ヤングファッションがないんですね。これには、多くの原因があると思います。とにかく、若いエネルギーがない。これは神戸のひとつの弱さだと思います。ファッションだけでなく、他の文化面においても同じことがいえるんですね。例えば美術なんです。神戸にも非常に前衛的な作家が何人かいるんですが、彼等が自分の作品を発表するのは、東京とか大阪で、一方神戸で作品を発表したり、中心になって活動している作家は、あまり急進的でもなく、保守的でもない、中間的というんでしょうか、そういう人たちなんです。

木村 そりゃ、ハイファッションもでき、ヤングファッションもできれば一番いいですよ。だけど、どちらの方に重点を置けばいいのか、という方法論になってしまいかもしれないけれど、要するに「核」というものが要だ、ということなんです。今、どこにいるか、というおおよその座標が分ればいいんです。しかし、下手に決めつけるのもいけないですよ。

乾 もちろんその辺が難しいところですね。しかし京都には、非常に古いものがある反面、ものすごく新しいものも強くて、両極端が存在してるんです。それによって若返りをしていくわけで、だから京都の文化が千年以上も続いているんでしょう。はたして、神戸にですよ、常

に若返らすというか、文化を持続させる活力がどういう形であらわれてくるんでしょうか。今、いったような対立もなく、それなりに意味はあるけれども、いわゆる中間的なものだけで……。時代とともに展開して、変化していく力がちよつと弱いように思えるんですが。ファッション都市宣言”のような形で、常に気運をもりたてていかなければならない、という現状自体がひとつのマイナスみたいな気がしますね。

★味覚産業にもっと力を注がなくては

木村 繊維産業に次いで、味覚産業に力を注いで欲しいですね。資格検定試験のようなものを設けて、それを相当権威づけるわけですよ。その資格証を持っていたら、一流の料理人であるというふうにな。フランスのミシュランのような、料理店の優劣を評価したガイド・ブックも欲しいですね。

乾 味覚は大事な文化ですよ。食べ物のまずい所に文化なんか育たないから。

木村 まず、最初に国内的、国際的大コンクールを催したらどうでしょう。賞金も奮発して欲しいね。

乾 神戸でならできますよ。

木村 出場者も日本人だけなら、いわゆる「井の中の蛙」でしょう。だから、神戸でイタリア料理店を経営しているイタリア人だとか、フランス料理専門のフランス人だとかにも出場してもらって、インターナショナルなものにしないと意味がありませんよ。ぜひ、実現してほしいですね。

乾 それは、いいですね。今、ミシュランの話がでましたが、あれは非常に良くできていますね。

木村 そして権威がありますね。

乾 三つ星が一番良いわけなんですけど、たとえ二つ星でも一つ星でも、安くてうまいところが多い。また一つ星でも、地方的な味とか繊細な味とか。実に細かいんですよ。

木村 とても厳しい評価が行われていますね。中途半端でなくて、徹底的にやっていますね。だから、ミシユラは権威があるわけですよ。

乾 そして、神戸市の文化賞でも、例えばお菓子づくりのとても上手な人にあげる、ということもあっていいんじゃないですか。

木村 繊維産業、味覚産業に続いて、少し教育についてお話ししたいんです。前に神戸にはたくさん外国人がいる、という話が出ました。この多くの外国人に対して行政当局あたりで、外国人のための日本文化の研究会を開くとか、逆に日本人の高校生や中学生を課外活動の一環として、たとえば近代美術館に連れていくとか。受験勉強だけでなく、小さい頃からそういうものに触れさせておくことは大事なことです。

乾 カナディアン・アカデミーの学生が、歌舞伎を演じているらしいですね。あれはすごいと思うなあ。

木村 ぜひ、一度見たいなあ。我々、日本人は外国人から文化センスを吸収しないといけないし、外国人も日本文化をもっと勉強してもらいたい。



#### ★近代美術館で三宅一展を

木村 ファッションの話に戻りますが、神戸ブランドというものを、国内はもとより、国際化しなければいけないですね。具体的に言えば、神戸をパリやミラノのようにしたいっていうことなんです。

乾 それには、人材を育てることが必要になってきますね。特にいいデザイナーを。一朝一夕には不可能でしょうが、これからは外国の有名デザイナーたちと、もっともって交流すべきだろうなあ。

木村 こんな提案はどうでしょうか。東南アジアの伝統的染織の中に、すごく現代的な新鮮な感じのするのがあるでしょう。それにインド更紗とかイスラムの段通などもある。これらを集めて、近代美術館でアジアの国々だけのテキスタイルの国際コンクールを行なってみてはどうでしょう。ひとつの良い刺激にもなりますよ。

乾 こんなアイデアはどうですか。例えば、県立近代美術館で三宅一展など、やればいいですね。

木村 それはいいですね。絶対やるべきです。何よりも





神戸らしい。国立の美術館ではできないですよ。

乾 美術館でファッションショーをしてもいいし、三宅一生氏のように、個人的なファッションデザイナーの展覧会というのもおもしろいと思います。

木村 美術館では美術展を、とこだわらなければならないですね。美とか芸術というものは、床の間に飾っておくものではなくて、もっとどろどろとした、人間の生活に密着したものだから。

乾 それと、優秀な人材を神戸に定着させないといけないですね。画家、彫刻家、ファッションデザイナーに限らず、お菓子の職人までも含めて、広い意味での文化の担い手に特典を与えるようなことを、行政の方から配慮する必要があります。パリでは、市が芸術家にアトリエを安く斡旋してらるんですね。パリは何年間住んでるとか、業績がどうであるとか、かなり条件もあるんですが、日本人でも広いアトリエを安い家賃で借りている人もあるんですよ。空いているスペースを市が買い取って、芸術家に提供してるんですね。

木村 神戸の町は比較的、小回りのきく町だから、ポーターアイランドの一角に、芸術家たちのアトリエに広いスペースを与える、ということを行政側で何とか考えて欲しいですね。プレハブでいいんですよ。

乾 ひとつの核づくりが文化のためには必要で、文化も結局は人の問題だから、人が仕事をできる場所をつくるということが重要なんですね。美術館や音楽堂をつくることも大切だけど、同時に人を育てるためのアトリエをつくる、ということも非常に大切なんですね。

木村 私をはじめに、環境づくり、組織づくり、施設づくりと申しましたが、この「施設」というのは、大博物館、大美術館をつくるというのでなく、耐用年限を過ぎた、あまり使われていない建物を借りて、アトリエ街にしたらどうか、という意味で申し上げたんです。古い倉庫でもいいんですよ。家賃が安く、スペースが広ければそれで充分。現にニューヨークにソーホーという美術

家街があるんですよ。美術家が八千人もいて、日本人だけで数百人いるんですよ。それだけ人数が寄れば、画廊ができて、ブティックができて……。新しいファッションが生まれ、大げさにいえば、ニューヨークのファッションっていうのはソーホーから——なんですよ。

乾 文化とも何ともいえないような所からエネルギーが生まれてきて、それが美術とかファッションとかに結びついていく。美術だけ、ファッションだけで人が集まるのではなく、いろんなものが結びつくんですよ。美術もファッションも食べ物も、あらゆるものが……。

木村 それに、先ほどおっしゃったジャーナリズムが加われば「鬼に金棒」なんですね。

乾 総合的な形でとらえていかないといけないですね。

★ボーアイに広いスペースのアトリエ村が欲しい

木村 神戸に芸術大学がないんですが、私は神戸には芸術大学は必要ないんじゃないか、と思うんですよ。大阪と京都にいくつか芸術大学や芸術学部がありますから、そこを卒業した人に神戸で活動してもらえばいいんですよ。私もそう思いますね。それに、芸術大学を出た人はほとんど芸術家にならないですよ。数えるほどしか。

木村 なぜ、ならないかといえば、それは彼らの活動する「場所」がないからですよ。たとえば陶芸を学んだ人が卒業した時点で、仕事をするための窯がないんですよ。仕事を続けたいのはやまやまんですけども、する場所がないんですよ。

乾 神戸は芸術大学はないけど、私設の養成所、研究所みたいなものは多いですね。だから、潜在的な芸術家の卵はたくさんいると思うんですが、どうでしょう。

木村 芸術大学の場合と同様、養成所などを卒業しても芸術家になる人は少ないですね。特に先ほどお話しした陶芸を含む工芸の分野では……。というのは、絵画の場合には四畳半にいても絵を描くことはできるけど、染織、陶芸、漆工とかは場所が要るんですね。まさか、下宿で

はできないし。だから、ポートアイランドあたりに芸術活動のできる広いスペースが欲しいんですよ。

乾 そう。とにかく場所が必要ですね。そして、そうした若いエネルギーをもった芸術家の卵たちがたくさん集まれば、その人たちのなかから、これからの神戸のファッション界を担う、クリエイティブなファッションリーダーが生まれる可能性も大きいということになりますからね。

★神戸を愛する人たち構成の風致委員会を早急に

木村 神戸には風致委員会のようなものはあるのでしょうか。

乾 はっきりは知りませんが、でき始めているらしいとかいう話はききました。

木村 かなり権限をもったものをつくらないといけないですね。京都には風致委員会があって、看板の色や高さはもとより、屋根の瓦の色にまで制限をして、すごく権威があるんですね。パリだってそうですよ。日本航空のマークの赤い色があるでしょう。あの色は、パリでは使

えないんですね。だから、日航のパリ支店の事務所は色を変えてますよ。それほど規制が厳しいんです。パリが文化の都とかいわれている裏には、それだけの規制を行なっているんですね。ぜひ、それを神戸でも実施してほしいですね。

乾 今でも遅いぐらいですよ。早く急がなければ。

木村 フランスの場合は、パリはもちろんのこと、人口五万人以上の町にはこの風致委員会があるんですね。ツールという町を調べたことがあるんです。日本では学識経験者のような人を委員にするんですが、向こうは違うんですよ。ツールでは、パン屋さん、学校の先生、タクシーの運転手など、そこで生まれ、そこで育って、本当にツールの町を愛している人を委員に選んでいましてね。そして、人口八万ぐらいの小さな町だから、その人たちは町の隅から隅までよく知っているんですね。ある意味で、そういうふうに本当に神戸を愛している人を委員に選ぶべきでしょうね。

乾 風致について、少なくとも建物の外観だけがいいんですね。中は使い易ければそれでいいのだから。町の美



観を損なわないような規制をつくって、せっかくの風情を壊さないようにしなくては。ヨーロッパなら、パリにしても、どこにしてもちゃんとそうしていますよ。

木村 そうなんです。遅いかもしれないけど、やらなければなりませんよ。放っておいたら無茶苦茶になってしまおうでしょう。名称も風致委員会でなく、もつと落した名称をつけて、真に神戸を愛している人たちを委員に選ぶ。そして権限をもたさなければいけませんよ。

乾 町に彫刻を置くということもいいことだけど、そんなことよりも、昔からあるいいものを残そうと努力しないとだめですね。

木村 神戸には昔からいい雰囲気がありますね。残念ながら三宮にはビルが立ち並んでしまったけれど、「神戸らしいなあ」って感じる所はまだ残っていますからね。山から海につながる坂道があって、こういったものをうまく利用することを考えなければ。最初に申し上げた「環境づくり」ということになるわけです。

乾 そこで、一番難しいのは保存するものと新しく建てるものをどうするか、ということなんです。京都の場合、非常に難しいんです。というのは、古いものはそれでいいんだけど、新しい個性的な建物がうまく調和できずにだめになってしまふんです。そうすると、可もなく不可もない、まったく何の特色もない建築物ばかりができ、だから京都には新しいビルなどで、有名な建築家のつくったいい建物はほとんどないですよ。こんなマイナスがでてくるわけで、新しいものと古いものをどう調和させていくか、非常に難しいことです。

木村 大きな課題ですね。パリやローマ、それに京都などは保存に重点があつて改築をなかなか許さない。要は原則は専門家に任せて、監視は地域の人に任すといったシステムの風致委員会を絶対つくるべきです。それも早急にね。

乾 文化とは、本来は民衆でつくるものだけど、現在は行政を離れて問題を解決できなくなっていますね。

木村 そうなんです。文化というのは、今や都市の大事業であり、世界的大事業だと思いますね。だから、文化都市をつくるには、経費はかかりますよ。

乾 行政は、何かことをしたら、すぐに反応、すなわち実績を求め、それがでてこないといけません。けれど、文化の問題においては、それをしたから、すぐそこからひとつの結果がでるといふもんじやなくて、長い歴史の積み重ねのなかから、ひとつのものができてくるわけです。根本的な点をもつと見究める必要があると思います。

△於・大しま▽

乾 由明

昭和26年3月京都大学文学部卒業。同大学大学院、助手を経て、38年国立近代美術館京都分館主任研究員。41年京都国立近代美術館事業課長。45年京都大学教養部助教授、50年同大教授。この間、文部省在外研究員としてヨーロッパ、アメリカに留学。著書に「抽象絵画」（保育社）、「モノと印象派」（中央公論社）など。

木村 重信

昭和24年3月京都大学文学部卒業。28年11月〜49年3月京都市立芸術大学美術学部講師、助教授、教授歴任。49年4月大阪大学文学部教授。この間、アフリカ、アジア、中近東、ヨーロッパへたびたび遠征し、美術遺跡の調査を実施。著書に「美術の起源」（新潮社）など多数がある。

## ●月刊神戸っ子

1978年

新年会へのお誘い

1月14日<土>

P.M.5:30受付 P.M.6:00より

プログラム

第2回「神戸文学賞受賞式」ほか

会費/¥3,500

お問合せ・お申込

月刊神戸っ子編集部

神戸市生田区東町113ノ1 大神ビル7F

Tel. 078 (331) 2246 迄

明日のKOBEを創る 130人のリーダーが情熱をこめて語る

FASHION OF KOBE

# 神戸ファッション都市論

自己主張のある余暇とファッション文化  
神戸のモダンライフの流れを探る  
ファッション都市は日常生活の集積から  
スポーツライフがファッションをリードする  
ファッション文化に不可欠な創造性  
住むのに最高の町、日本の外国、神戸  
神戸文化の背景は国際的モダニズム  
ファッション都市づくりの核にメッセ(見本市都市)の設置を  
ファッション都市はショッピングエリアから  
ファッション都市の舞台装置を創る神戸の家具  
洋菓子こそ神戸文化のバロメーター  
全国の80%を集散する神戸の真珠業界  
ファッションは生活のゆとりのなから生まれる  
トータルファッションのなかの神戸シユーズ  
百年の伝統と世界的技術を誇る神戸の洋服  
神戸の生活文化を培うデパートメントストア  
ファッションナブルな神戸の魅力をつくる北野町界限  
世界的な水準を誇る神戸の味覚文化  
長期ビジョンをもったファッション都市づくりを  
ファッション都市に必要な空港とホテルと見本市会場  
ファッション情報センターの設置が急務  
ファッション都市を創る人材を養成する  
豊かな文化が経済活動のエネルギー源となる  
既成市街地の整備と未来の海上都市の建設  
あすの神戸、国際情報文化都市の創造を目指して

編集 / 月刊「神戸っ子」  
発行 / コミュニティサービス株式会社  
(〒650)神戸市生田区東町113-1大神ビル7F TEL.078-331-2246

お待ちいたしました  
市内各書店にて発売中！  
KOBE MOOKS No.1  
定価 1,200円  
(送料 200円)  
A4版 220頁

# □神戸文学賞 / 神戸女流文学賞 第2回受賞作品選考座談会

## 人間描写の味「姥捨て」奥野忠昭 会話の巧みさ「生活」吉峰正人

■選考委員

足立巻一 (作家)

森川達也 (文芸評論家)

白川 渥 (作家)

松原新一 (文芸評論家)

小島輝正 (神戸大学教養部々長)

編集部 本誌創刊十五周年を記念

して設定された「神戸文学賞・神戸女流文学賞」も、第二回目を迎えました。今年は西日本各地から

「神戸文学賞」に三十二篇、「神戸女流文学賞」に三十二篇の応募があり、六名の選考委員によって慎重に選考された結果、次の十篇が残りました。「神戸文学賞」では真鍋勇「初年兵」、奥野忠昭「姥捨て」、徳留節「閣下」、吉峰正人「生活」、村戸勉「寄生蜂」の五篇、「神戸女流文学賞」では井上淳子「青春の眩き」、坪川立枝「虹の町」、山田とし「獄のぞき」、田純千世子「触れる」、武田喜美子「ボクは目撃者」の五篇です。

それでは「神戸文学賞」より最

終審査に入ります。

★生活派の「姥捨て」と抽象派の「生活」に

「生活」に

B すでに基礎選考で選考委員に二回ずつ読み回してもらい、最終的にこの十篇が残っているわけですが、大作が多くなりましたね。

A 昨年は、それぞれに一番良いと思うのを推す方法でしたが、今年は消去法でいきたいんですが。

C 一つ良いのを推薦するのはむずかしいようですね。

A それでは私は「初年兵」と「寄生蜂」をはずします。

D 私もそれで異議ありません。

B 僕も同意見ですね。

E 私は「寄生蜂」を落とすのは

賛成だが、「初年兵」は泥臭い作品なりである観点からみて、素材さを感じるんだが。

A 「寄生蜂」は主題がよくわからない作品ですなあ。本人もつかんでいないんじゃないだろうか。

B 最後の詩がわざとらしくていいものですね。

D 手記風に書いてあるのも、必然性がないように思う。

A この人は「生活」の吉峰氏と「地下室から」という同人誌を出してますね。似かよったところがあるようです。

E 「初年兵」は作者が全エネルギーをぶつけた作品だと思う。今の時代にこういう人は少ないで



足立 巻一さん



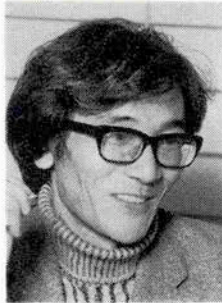
白川 運さん



小島 輝正さん



森川 達也さん



松原 新一さん

しよう。

A 五十九才という年令で、文章には幼稚なところもありますが、情熱はたいしたものですよ。こういう人が、日本の文学を支えているんですよ。しかし受賞作品の対象としては問題点が多いし、あまりにも通俗小説的ですね。

E 確かに最後の部分は、ぶちこわしだな。

B 案外、若い年令層の読者をひきつけるかもしれませんね。庶民社会のある感動のパターンをつかんでいますよ。

D 日本人の泣きどころがわかっているな。しかし文学としては未熟さが目立ちますね。

C 「閣下」という作品は、ちょっと凝りすぎじゃないですか。

A 僕はわりと好きな作品です。のびのびとした文章ですね。

C 同人誌「十日」のメンバーは、書き慣れている。文章が達者だ。

A 結末の処理の仕方があっけないですね。テーマははっきりしているんですが、この程度のテーマならもう少しついででほしいですね。

E 文章の密度もなかなか濃いよ。うだ。

B 難をいうともうちょっとシャープさがほしいね。

C 拡散していて、集中度が足りないようだな。

A 「生活」は一種の生活の風刺でしょう。一応まとまっています面白いですね。

D これを読んだ時、安部公房の「友達」という戯曲と似てるなあと思えましたよ。

C 「寄生蜂」の村戸君にしろ、安部公房の影響が大きいようだね

E 「生活」という題もその辺からきているのかもしれないが、あまりよくない題だ。

D 僕はこの作品の会話の部分がうまいと思う。この人に戯曲なんか書かせたら、面白いんじゃないかな。

C 文章中、所どころ、わざとでしようが、「ペニスガ折れた」とかびっくりするようなオーバーな表現がありますね。(笑)

A 一応最後まで読ませる作品ですね。場面は変わらないのね。

C しかし初めの部分は必要ないですね。主人公が部屋につれ込まれたところから始めた方がいい。

B 二十八才という若さで、これだけ書けるというのかもしれないですね。

E 文章もなかなかしっかりしているしね。

A 「閣下」と「生活」なら「閣下」の作者の方が文章は慣れているようだが、作品全体としては、「生活」の方が良いでしょうね。

B・C・D・E 同意見です。

C 「姥捨て」は作者が小学校の先生というだけあって、子供の描写が上手いね。

B 子供は確かに生き生きとよく描写できているが、主題の男の心情はどうですか。

A 主人公と作者にあまり距離がないように思うが、作者の見方がもう一つよくわからないね。

C 嫁さんに惚れて母親をことん捨てるところに、無理をして書いていっているような不自然さがある。

E いらざる部分がかなりある。もっと削った方がいいな。

D 子供がいじらしいほどよく書けていて、「子捨て」というタイトルの方がいいくらいだ。

B 「閣下」「生活」といった抽象的な作品と私小説風の「姥捨て」では比較の基準が合わないですね  
D 安部公房型の「生活」も捨て難いし、「姥捨て」も手を加えてもっと簡潔にすれば立派な作品ですからね。あとは読む人の好みですね。

A 賞金を分けることにして、二作を当選にはどうでしょう。

C どちらかの作品を佳作ということにしてもいいのだが、そういう例がないからね。

B 保留にして「神戸女流文学賞」の選考をすすめてはどうでしょう。その結果も考え合わせるとして。

編集部 では一応「生活」と「姥

捨て」の二作を残し、神戸女流文学賞の選考をお願いします。

★神戸女流文学賞は佳作二篇に

C 削除法でいきますと「青春の眩き」と「獄のぞき」と「触れる」は除外していいんじゃないかと思えますが。

A 私も「青春の眩き」は未熟であるということが理由で充分だと思えます。

B 「獄のぞき」の作者は書きなれた人ですね。

D 監獄の中へ慰問に行った話でそれなりに面白いですね。

C 小説というより随筆に近いものですね。小説としてテーマの集中力が足りないようです。

A 「触れる」はどうですか。僕はテーマがようわかりませんな。

B あるところまでは見当がつくけど、やっぱり客観性を打ち出してもらわんと。

E 文章は達者ですね。

D 最初の印象体験はない方がええですね。

B 書かなきゃ作者は不安なんですよ。

C こんなことは書かなきゃいいんですよ。カフカの悪い影響うけるね。(笑)

E 構成不十分とか、表現の成功不成功がありますね。そう、良い作品とは思わない。こういうのは

よほど用心して選ばんと流行に右へならえているみたいで。

D ちょっと魂胆が悪いですね。

(笑)

C 「虹の町」の作者は、「日本海作家」の同人なんですけど、去年の五十一号の八月号だったかに、「西に棲む鬼」という題で発表したものに手を加えた作品ですね。

三、四十枚程書き加えたようだ。この中に登場する僧侶のアイという男の部分が前はなかったです。

ない方が、しまりがあっていいんですよ。ところで作品は五十二年度中に書かれたものとかいう制限はないんですか。書き出しや書き納めなど前作と全く同じです。どの程度厳密に考えるべきか――。

A この「虹の町」は文章とかいろいろ問題はあるんだけど非常に捨て難いところもあって、あるリアリティがあるんです。ローカリ

ティもあって好感を持ちました。

E ぜんまい取りの部分なんか非常によかったですよ。

C 文章を一つ一つあげるとかなり幼稚な部分があります。小学校卒という学歴だけでこれほど書けることは高く評価してもいいですね。扱い方がむずかしい作品です。

B 良い作品だと思っし、アイを入れたらという作者の心情はわかるな。

C 「虹の町」の魅力はぜんまい

取りと、最後の部分、いとこがいて、それを鬼と思うという所だろう。なまじつか以前に読んでいたのでそぐわなくて……泥臭いままの方がいいように思うね。

E 会話が方言だが、それに密着したのが好きだ。

D ちよつとふくらまし過ぎたかな。

A ということで「ボクは目撃者ノ」が残りますね。

C 一番スキツとした出来生えといえるでしょう。

B ヴィヴィッドでそつなく仕上げていますね。

D 子供を書くにしちや、無茶苦茶だ。わからないところがある。

E 子供の眼で書くのは易しいから、そこへみんな逃げるな。老人と子供に逃げてしまふ。

C 「虹の町」は誤字も多いし、このままではえらいことですよ。

A でも全部、直してしまふと味が消えてしまふそうだ。

D 誤字を指摘し出せば、かなり多いね。

E 野趣満々で中央文化に毒されていなのには魅かれる。文章の幼稚さはいたるところに出ているが。

B 実際、女工哀史みたいなところもあるし。

A タイトルは「西に棲む鬼」の方が面白いんじゃないかな。

C 構成力は充分にあるね。

E とどころどころハツとするような簡潔で素晴らしい表現がある。

A この人の感覚はほんまもんですよ。

D 文章を治すというのも大変だが、「ボクは目撃者ノ」を受賞作というのにも賛成しかねる。

B この人もかなり同人誌で見えています。

C 確かなことは確かですね。

A もう一つもの足らないね。これが当選作かな；という感じで、これで賞をもらうなら得をしすぎるといふ感じ。

D ちよつとまとまりすぎている

B 僕は選ぶとすると条件を付けて「虹の町」です。しかしこのまま出すには抵抗があるでしょう。

E 方言の会話がまた面白いんだけど、いろいろと結局入れすぎたことかな。

B わらび取りやぜんまい取りの描写は、無意識に書いているようだが、描写がうまくて、目をつむると情景が目浮かぶようだ。

D 手直しというのも仲々むずかしいし、そうなると編集部として

も責任があるから大変でしょう。

編集部 そうですね。編集部で手直しというのも考えものです。

A もう一度、書き直して挑戦したってことでしょうか。

C これしかなかったのか——ということになるでしょうね。

D とすると、「ボクは目撃者ノ」になるわけですか。

B レベルを落として当選作を選ばないといけないでしょうか。

A 神戸女流文学賞は当選作なしというので、そのかわり神戸文学賞の当選作を「生活」と「捨捨て」の二篇にしたらどうでしょう

D それがいいですね。レベル的にも、神戸文学賞の二篇の方が良いし、神戸女流文学賞に応募される方々には、もっと頑張ってもらいたいという感じですよ。

E それでは神戸女流文学賞の佳作として「虹の町」と「ボクは目撃者ノ」を選ぶことにします。

A この文学賞は東京あたりでもかなり注目されてきているようですし、これから先が楽しみです。

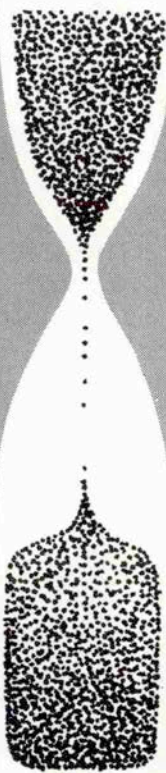
B 昨年十三才で応募した少女が今年もヒトラー過熱期のドイツを舞台にした少年少女の小説を書いて送ってききましたが、仲々面白いし、一読に値します。今後が非常に期待される人ですよ。

編集部 それでは、奥野忠昭「姥捨て」と吉峰正人「生活」を神戸文学賞の受賞作品、徳留節「閣下」を佳作に、神戸女流文学賞では、坪川立枝「虹の町」と武田喜美子「ボクは目撃者ノ」を佳作とします。

(一九七七・十一・二六)



★キャンペーン  
国際文化都市神戸を  
考える



㊦

# 世界に通用する神戸 ブランドのファッションを

酒井 春海

△株式会社アオイ社長▽

芹澤 貞雄

△株式会社セリザワ・インターナショナル  
社長▽

狩谷 敏男

△エスターニュートン社長▽

梅沢 照雄

△サノへ常務▽

坂野 淳子

△株式会社ファミリア専務▽

## ★ブランド志向の時代

神戸市は現在ファッション都市づくりを目指しており、行政・経済界・市民が一体となつていろいろなプログラムが進行している。  
ファッション都市神戸の今後百年はポートアイランド―海上都市の動向いかにかかっている。さらに、それと対応する形で既成市街地の整備も急を要するところである。

キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」では国際文化都市として神戸はいかに、どうあるべきかを文化、経済、行政各界の方々により各論のよりつっ込んだ問題提起と分析を行い、国際文化都市への実践的な指針を展開するものである。

今回は輸入ファッションを展開されている方々によって最近の動向と今後の問題点、さらにファッション都市への期待と要望を語る内容である。

芹澤 最近の衣料ファッションの傾向はファンクッションということ、いわゆる活動的なものが一つの流れであるようですが、輸入ファッションは国産と比べてプライス面で問題が出て来ますね。我々が対象としますのはミセスということなんです、活動的な洋服が果してどこまで受け入れられるかというといろんな問題が出て来ます世界的な動きとしましてはスポーティブなものが主流になって来ています。現在の日本のヤング志向の衣料ファッションはこのスタイルに完全に入ってきて来ていますね。

ただ、輸入したものは国産品と同じプライスで展開できるかということとそこに問題が出て来る。そうすると経済力に富んだ女性ということで、お客さまの対象が限られて来ます。そういう方は経済性もありますし、また、知性

や教養、上品さのあるクラスになって来る。ヤング志向的な洋服がそういう層の方々に好まれるかというところが今この段階では疑問ですね。ニューファッショナラインと伝統的なクラシカルラインと二つに分かれているわけですね。輸入ファッションではやや年齢的にも上のお客さまが対象になって来ますから行き過ぎたものは受け入れ難い傾向がありますね。大半がクラシカルラインです。

結局、日本ではつくられない、それらしき価値観のあるものが日本のマーケットで受け入れられていると思います。

商品の内容的には、ブランド志向型の商品と、もうひとつのラインとしましてコスチュームのもっている味とブライスのとの調和のとれたもの。ひと言でいうと価値観のあるものと、ブライスで国産の商品と勝負をしても勝てる商品、この二つになりますね。

酒井 今、ブランドが浮かび上って来ているのですが、お客さまが欲しいがっているものをもって来れば必ず売れるというのが一つの原理ですね。スカートとかブラウスだとか、オーバーコート、靴にしても中年以上の方はもう高級品をお持ちなんです。だから、ただはけるもの、ただ暖かいというだけでは売れない。イタリア製、あるいはフランス製だけではダメになって来ました。何々のハンドバッグ、何々のブラウスが欲しいと、ブランドから入って来る時代になって来ましたね。ヨーロッパで売れている有名品でない日本でも売れない。我々はそれを捜し、また、向こうへ行って、こういうものじゃダメだからこうして欲しい、もうちょっと優秀なデザイナーを使って欲しいとか要望するわけです。それでタイアップして日本だけじゃなくニューヨークでもロンドンでもパリでも売れる商品を仕入れるわけです。

これから日本が世界のファッションをリードする時代が必ず来るとみんないっていますね。ケンゾーとかイッセイとか向こうへ行って勇敢にやっていますね。これが実って来るし、この人々を我々がバックアップして、

我々の今までのノウハウを世界に供給するために、ハンドバッグはイタリアでつくり、ブラウスは日本でつくりそしてニューヨーク、あるいはパリに店をつくる。そういう時代が来るのじゃないですか。オリジナルの本物しか生きて来ない時代が来ると思います。

狩谷 技術的には日本人は優れていますので、逆にヨーロッパ、アメリカへ輸出する。これが神戸ファッションの本当の行き方だと思いますね。外国製品の販売だけじゃもうダメですよ。日本のブランドでパリの店を出してそれが堂々とまかり通るということでないとこれから生きる道はないと思いますね。うちのオリジナルの服がパリで売れる。こうありたいですね。

坂野 確かにブランドは大事だと思うんですが、私はマークが嫌いなんです。なぜ表にマークのついたものをわざわざもたないといけないのかという抵抗が非常にあります。ブランドがいいから売れるというのはまだ本物じゃないなと思いますね。ブランドじゃなくて商品そのものがいいかどうか、商品が本物かどうかを見分ける眼が消費者にだんだんとできて来て、本物がいいという世の中になって然るべきだと思います。マークで売れている傾向があるからイミテーションが出てくるらしいですが、マークじゃなしに本物のよさを見極める消費者のレベルアップも大事だし、本物を大事にする我々の姿勢がまず大事ですね。

#### ★好まれるファッションは世界共通

芹澤 ファッションに関しては神戸という町は非常に保守的だという気がしますね。ただ全国的に見ますと神戸の女性のレベルは非常に高いですね。神戸の女性は自分の個性をよく知っていますね。これが今年の流行だからといって即それにとびついて行く層では決してない。自分の個性をよく知ってなおかつそれを十分に見極めた上でトップファッションを求められる。押しつけのファッションに対しては拒絶反応を示すようですね。



酒井 春海さん



芹澤 貞雄さん

神戸ファッションが他と違うのの一つは色ですね。神戸は山があり海がありという背景がありますから非常にカラフルだと思います。もう一ついえるのは神戸は感覚的には半分はアメリカで半分はヨーロッパ、だという気がしますね。色で表現しますと強烈なトルコブルーだとかピンクだとかですね。その反面、シックで地味な色を好まれる層もそれと同じくらいあるということです。

梅沢 みなさん、神戸カラーは何色だとかおっしゃいますが、受け入れられる商品は同じだと思いますね。大阪の方はちよつと違うと思いますけど、東京も神戸も同じだと思います。

酒井 今は情報がすぐ伝わりますから世界いっしょだと思えますね。いいもの、本物は必ず残って行きます。芹澤 そうですね。受け入れられる商品は日本に限らず世界どこでもいっしょですね。一つの顧客対象を考えた場合ですけれども。パリ、東京同時発売ということも

り立てて耳新しくないようですね。

これはプロポーションの問題ですが、最近の若い女性のプロポーションは非常によくなって来ていますね。ヨーロッパのトップファッションを素直に着こなして行ける時代が近くなっているという気がします。

商品のセレクトについていいますと、それぞれの企業の好みのラインというものが必ずあるわけですね。自身の基本的な考え方は、あくまでもフェミニンなもの、女性はあくまで女らしくあって欲しいと常に考えておりますので、エレガントで優雅な洋服ということを考えますね。そういう洋服を着ていただくお客さまの対象といたしましてはやはり上品で知性も教養も備えたエレガントな女性ですね。

梅沢 クレージューも最初はどうかと思いましたが、二二年目から軌道に乗りました。

正直いつて日本へ入れる商品を選ぶときは売れるかどうかということは分りませんが、やってみたいという気持ちは起こるわけです。そのときに話を決めるわけですね。日本で売れるだろうかということはあんまり考えていないですね。まあ、この分野はまだ開拓されてないので、うしても欲しいということを決めるわけです。初めから売れるとは思いませんね(笑)。

酒井 やはり、これは好きだ、売れても売れなくてもやるべきだと、その商品に惚れたものが成功していますね。力も入れますしね。それと、新しいものは神戸で一定量をテストするわけです。そこで受け入れられたものは東京へもって行ったら必ず成功します。これは昔からみなさんがおっしゃるんですが、神戸の方はセンスがいい。狩谷 最近うちはスイスのあるメーカーのものを扱っているんですがよく売れています。やはり素材とスタイルがいい。非常にセンスのあるデザインですね。最初手掛けたときは不安を感じていたんですがね。

坂野 いいものでプライス的にも合うものがあれば今後日本に入れて行きたいですね。品質は毛糸でもイギリ



狩谷 敏男さん

スがいいですね。原毛とか原糸が日本と違います。

★これからは世界ブランドの時代

坂野 外国では子供を育てるときの基本が日本と全然違



梅沢 照雄さん

いますね。育った家庭環境などで子供は肌でじかに色彩の基礎訓練を身につけていますね。ですから神戸をファッション都市にしていたためにまず幼児の色彩訓



坂野 淳子さん

練とか、インテリアを全部含めて、そういうものをもっと厳しくやっていたかかないと、仲々ファッション都市にはならないのじゃないかと思えますね。看板やウィンドーにしても見る方にそういう訓練がなかったら店が変なことをしても気にならない。私たちのお店に買物にいらっしゃる方でも子供のいいなりにチグハグな色のものを買われる方がございますが、もう少し、プライドをもって、これは似合わないですよという親の教育姿勢が欲しいなと思えますね。

酒井 ファッション都市となるとトアロードなんかは統制のとれない店を並べるとかの配慮が欲しいですね。市街地改造で大きなビルばかりつくるのは、結局、地元のお店が泣くだけでしょう。大企業は入って来れるので嬉こんでいますね。力があるしね。

狩谷 本心に個性も何もないですね。

芹澤 現在、センター街が神戸のメインショッピングストリートのようになっていますが、町づくりの上で、たとえば、決してヨーロッパかぶれをしているわけではないんですが、アーケードが問題ですね。日本の気候上、雨が多いためから必要かも分かりませんが多分にローカルのな臭いを感じますね。それと町にもっとグリーンがあればいいですね。

坂野 宮崎市長はファッション都市に積極的に関心を示されているのですが、掛け声ばかりで、五年たつて実際に何ができたかという疑問ですね。プランナーと実行する人とが両方動かないとダメですね。小さなことからでもやっていかないと……。

酒井 最近、札幌から福岡へ行ったんですが、クルマから見ているとどちらが福岡か札幌か分からない。町に個性がない。神戸もそれに近づいていますね。神戸を再開発する場合、明確なポリシーが必要ですね。同じビルばかりつくらないで、たとえば、パリの場合、ここはさわらない、ここは近代都市化することが行われていますが、そういう配慮が必要ですね。

今の中央市民病院が移った跡にファッション都市にふさわしいホテル、催し会場もあり、駐車場もあり、最高の宴会場もあり、セレクトされたブティック街もあるホテルを建てて欲しいですね。

**坂野** 日帰りの観光客だけでなく滞在する観光客を呼ぶには宿泊施設がいりますね。ポートアイランドにもその計画がありますが、神戸の玄関という三宮周辺と新神戸駅ですが、新神戸駅周辺は今のままにしておくべきではないですね。新交通システムも新神戸駅までつないで欲しいですね。観光都市として人を集める工夫、ファッション都市として展示会場などの人を集める場所、そういうものを積極的に考えていかないとダメですね。

**梅沢** 公園やプールもあるホテルが欲しいですね。おおぜいをまかなえる宴会設備といい料理も必要ですね。

**酒井** 相当な敷地を神戸市民のために市から提供してもらいたいですね。

**狩谷** 国際的な社交場が欲しいですね。

**酒井** 絶対にこれだけは欲しいのは素晴らしいホテル。

**狩谷** 今、トアロードで考えていますのは、神戸外国倶楽部を美術館とか人を集める施設にして地元の繁栄につながせたいということなんです。

**梅沢** 昔のトアホテルのような感じのものができればよいよろしいですね。

**酒井** 私もできたらトアロードに店を出したい。トアロードにいいもの売ってらっしゃる老舗が集中して来て欲しいですね。トアロードは絶対に神戸らしい商店街にして行かないといけないですね。

**坂野** それとやはり国際空港が近くに欲しいですね。

**酒井** そうですね。我々ファッション産業は飛行機の利用が多くなりましたからね。

**坂野** 神戸で世界的なファッションショーをやりたくても空の足がなければどうにもなりませんからね。

**酒井** 大きなことからいえば国際空港にホテル、それと統制された建築のトアロードの街並み。

**坂野** ファッション大学も、ぜひ欲しいですね。FIT（ファッション工科大学）のような大きな規模でなくてもFIDM（ファッション・インスティテュート・オブ・デザイン・アンド・マーチャンダイジング）のような規模のものからでも取り入れて欲しいですね。バイングシステムを根本的に教えるとか、子供の頃からの色彩教育とか、そういうことをする学校、洋裁学校じゃない、そういう学校も欲しいなと思いますね。

**酒井** 若い人のバイタリティが必要ですね。

**狩谷** 我々の年代になると保守的になりますからね。

**酒井** 冒険が恐いし。しかし、冒険があつて初めて開発ができるんですからね。

**狩谷** 職人の技術も低下していますね。一応形にはなりますよ。なりませんが部分的にキリッとした線が出ませんね。うちもオーダーの点で悩んでいるわけです。

**酒井** 優秀なバイヤーとして仕事ができる人が欲しいですね。仕入れには経験が必要ですからね。向こうでショーを見ているとまどわされる。非常にファッショナブルだけどこれはうちのラインではないというものも欲しいがりますね。

専門店がプロにならなければデパートに負けます。プロ意識が絶対に必要ですね。ファッションは本当のプロがやらないとダメです。生地と色彩と形を考えないといけないですからね。我々の商売では絶対に仕入れが大事ですからね。ファッションと本気に取り組んでいかないけないですね。

これからは世界ブランドの時代ですね。日本も含めて本当にいいブランドが残る。大きく時代が変わって来ているようですね。これからは世界が相手です。

**芹澤** 世界の衣料ファッションの今後の伸びということを考えれば、今はヨーロッパがメインですが、だんだんとアメリカとか日本が主導権を握って行くのではないかと感じますね。

（オリエンタルホテルにて）

### 田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作  
神戸市葺合区旗塚通 6 の 3 の 17  
TEL (078) 231-3321

### オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉  
神戸市生田区伊藤町 1 2 1  
TEL (078) 321-2111

### 株式会社ワールド

会長 木口 衛  
神戸市葺合区磯辺通 3 丁目 2 の 17  
TEL (078) 251-5311

### カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三  
神戸市生田区三宮町 1 丁目 43 番地  
TEL (078) 392-2101

### 株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男  
神戸市生田区三宮町 1 丁目 54  
TEL (078) 332-3155

### モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎  
神戸市東灘区御影本町 6 丁目 11 番 19 号  
TEL (078) 851-1594

### 入船株式会社

取締役社長 小泉 進言  
神戸市灘区新在家北町 1 丁目 1-19  
(阪神電鉄新在家南) プリコビル 3 F  
TEL (078) 851-3191

